

### 看護師1日体験

みどり病院・看学対  
亀田 果玖

今年も夏休み期間にみどり病院・華陽診療所を中心として5カ所と西濃にあるしずさと診療所で「夏の高校生看護師1日体験」を行いました。6日間で19校、約90人が参加しました。



午前中は看護師の働く姿を見学し、午後は看護患者さんとのコミュニケーションの勉強になった。「普段見ることのできない場面など違う目線で見るのができてよかった。」など嬉しい感想が寄せられました。次は春休みに行う予定です。その他にも多くの高校生に看護師への道を進むサポートとして様々な企画を予定しています。

### 看護を目指す高校生企画予定

- 2019年 10・11月：模擬面接会  
※看護学校を受験する3年生対象
- 12月：クリスマスボランティア
- 2020年 3・4月：春休み看護師1日体験
- 5月：ふれあい看護体験
- 7・8月：夏休み看護師1日体験



### 看護学生をご紹介ください

岐阜民医連では、将来みどり病院で私たちと共に地域の皆さんに貢献したいという看護学生さんを奨学生として募集しています。

- \*返済免除制度あり、所得制限なし
- \*学生支援機構の奨学金制度との併用可
- \*申請月から受給可能、申請は随時受付中
- \*勉強と生活をサポート

岐阜県外の学校に、入学・在学している方も利用できます



問い合わせ:090-1621-0243(看護学生担当:亀田)

### 「第16回こがねだ平和のゆづべ」に32名が参加

こがねだ診療所

9月5日、今年もこがねだ診療所は地域と共に平和について考え学びました。

まず「美味しい」とおにぎり」で交流し、

岩田十士さん(86歳/日 本中国友好協会岐阜県連 合会理事長)にお話しいただきました。

犠牲者は71名です。岩田さんは、「満50年の華陽診療所」、「みどり病院」「こがねだ診療所」建設運動の立役者でもあります。



内容は「中国人強制連行により作られた地下壕写真」を参照に、国策だった強制労働の実態です。岐阜県内の地下壕は主に戦闘機工場の移転先として掘られました。完成前の終戦で今も放置されたままです。なお、県内の強制連行の中国人

次に勤医協職員による原水爆禁止世界大会の報告が行われました。5名が順にナガサキでの貴重な体験をスライド報告。原爆の恐ろしさと平和の大切さをあらためて学んだとのこと。長崎市長だけでなく日本政府が唯一の被爆国として核兵器廃絶を強く世界に発

信することを願っている」と訴えたそうです。最後に森所長が来年もこがねだ診療所から原水禁大会へ参加者を出したいと抱負を語りました。



### 知って得する

### ヘルプマークを知っていますか

### 赤地に白い十字とハートのデザインのストラップ

#### 何の印?

外見からは分からない障害を持つ人、義足や人工関節を使っている人、知的障害や精神障害がある人、内部障害や難病の人、妊娠初期の人など、助けや配慮が必要なことを周囲に知らせるためのマークです。

裏面にシールを貼り、必要な支援を記載することができます。

#### 見かけたらどうしたらいいの?

外見では健康に見えても、疲れやすかったり、つり革につかまり続けるなどの同じ姿勢を保つことが困難な方がいます。電車内で席をゆずる、困っているようなら声をかけるなど、「思いやりのある行動」をおねがいします。

#### どこでもらえるの?

市障がい福祉課、各地域事務所市民福祉課、西濃県事務所福祉課、岐阜県庁障害福祉課でご希望の方に無償で配布されます。

- ◎概要を説明のうえ、ひとりにつき1個配布します。
- ◎配布にあたり、障害者手帳、身分証明書等の提示、申請書等の提出は不要です。
- ◎ご家族や支援者等の代理人による受取も可能です。



### 終活

### (老いじまい)①

介護事業部長  
岩原 田鶴子

認知症でも、日常生活を送ることができれば一人暮らしを続けることができます。買い物で同じものを買ってくる、冷蔵庫の中の食料が腐っている、風呂に入らない、尿失禁がある、部屋が片付いていない等、介護保険制度を利用することができません。ただし、本人のプライドの問題は残ります。激動の人生を生き抜いてきた高齢者にとって「誰かに手伝ってもらわないとできない」というのは屈辱です。厳格だった親がヘルパーの

援助を頼む、これは子供にとっても傷つくようです。その他のサービスとして、施設入所を考える人もいますが、金銭の問題もあります。世代によって施設入所に対する感じ方に差があり、戦前・戦中生まれの方は、施設入所に関して、抵抗がある方もいます。「畳の上で死ぬ」自宅での家族に迷惑をかけたくないので施設に入りたいと考える方もいます。しかし、実際は、90%が病院、10%が施設や自宅などです。今は60%が病院、残り40%を施設や在宅などと厚生労働省は目標を持っています。

ぶしつけではありませんが、皆さんは、どういう最期を迎えたいですか?どのように最期を締めくくっていききたいと思いませんか?私の担当した方々は希望されたように上手に過ごされました。その終活のポイントを次回から押さえていきたいと思っています。

